



ポラリス(北極星)を指すには  
北極星を見分けること。  
目指すところ(方向)は一緒でも  
寄り方はそれぞれ多種多様。  
一人一人の思いをエッセイの形で  
伝えたい。

# ときめき Beating Kashima 鹿島

## 新年のご挨拶

院長 坂之上 一史

新年あけましておめでとうございます。年末から年始にかけて大雪との予報がありました。幸い穏やかな新年となりました。昨年9月頃より日本での新型コロナウイルス感染者は急速に減少していきましたが、欧米では1日数万人から10万人を優に超える新規感染者の報道が続いており油断できない状況が続いていました。年末に出雲で飲食店を中心としたクラスターが発生、年が明けると全県で感染者の報告が相次ぐようになり、変異株であるオミクロン株は政府の水際対策にも関わらず日本中に広がったようです。この感染症の怖いところは症状のない感染者が他人に感染させてしまうということです。そのため3密の回避やマスクをつけることなどの地道な行動の大切さが繰り返し言われています。鹿島病院では入院患者さんやそのご家族に面会制限という形での感染予防を、職員には会食の制限や流行地域への移動自粛という予防策をこの2年間守ってもらっています。患者さんや職員の皆さんの協力のおかげでこの2年足らずの間、幸いなことに新型コロナ感染者を出していません。

鹿島病院のように医療、介護サービスを提供する施設にとって大切なことは提供するサービスの質は勿論ですがその継続性であると思います。毎月40人前後の患者さんに急性期病院や施設、在宅から当院へ新たに入院頂いており、さらに毎日40人の近隣の皆さんが介護保険により通所リハビリテーションを利用いただいています。入院でのリハビリ、慢性期医療と通所での介護サービス事業は新型コロナウイルス感染者が院内に入ることによって停止あるいは制限を余儀なくされます。これまで積み重ねてきた地域との良い関係を壊さないためにも職員の皆様に「コロナを持ち込まない」という行動の継続をお願いしたいと思います。

現在始まっていますワクチンの3回目接種に、開発や認可が進んでいる抗ウイルス薬によって、新型コロナ感染症が第2類感染症から外れインフルエンザ並みとなることはそう遠い話ではないように思います。再び地域の皆様と医療、介護問題について顔を合わせて相談できる日が早く来ることを祈っています。

2022年が皆様にとって幸多い1年であることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。





# 今年の抱負



リハビリテーション部  
浦栢 真基子

明けましておめでとうございます。

寅年は「春が来て草木が伸び始める時期」と言われているようです。丑年は「辛抱

の年」とも言われる様に、昨年はコロナにより色々なことを我慢し、制限することが当たり前になっていました。今年こそは感染に気を付けながらもいろいろな事にトライして、楽しむ一年にしたいです。

まずは実家に帰って、2年半会えなかった間に成長した孫の姿を両親に見てもらいたいです。もう一つは数年前から気になっていた習い事にトライしたい。子どもも大きくなってきて、自分の時間も持てるようになってきたので、これからは自分の時間を充実させ、公私ともに充実した1年にしたいと思います。



看護部 門脇 遥花

明けましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になりました。昨年春に入職し、初めての事が多く不安でしたが、皆様に支えていただき、

無事に1年を終えることができました。皆様が温かく声を掛けて下さるのがとても嬉しいです。

本年は昨年の反省を活かしながら努力し、成長できる1年にしたいと思います。理想の看護師像に近づけるよう、一步ずつ頑張っていこうと思います。今年もよろしくお願ひ致します。



在宅サービス部  
篠田 真名美

去年は目標としていた出雲三十三番観音霊場巡りをしました。33の寺院を全て参拝し、達成感はもちろん、パワーと癒しをいただきました。

毎日お経をあげるという習慣もつきました。継続は力なりです。「その歳でできるとはただもんじゃねーなあ」と参拝中にお声をかけていただいたことが印象的でした。素敵な出会いもたくさんありました。また、利用者様から「五黄の寅の女はおじいど」と言われ初めて五黄の寅というものを知りました。最強の運を持っているそうなので、今年が良い年になるよう何事も頑張っていきます。子供の健やかな成長を願い、出雲国十三仏霊場の参拝を今年の目標としたいと思います。

今年もよろしくお願ひいたします。



診療部 曾田 歩

昨年は入職して1年目で仕事内容を覚えるのに必死でした。今年には自分の仕事に責任を持ってスキルアップできたらなと思います。仕事でもプライベート

でも1日1日を大切に過ごしたいです。今年もよろしくお願ひします。



看護部 竹森 和希

あけましておめでとうございます。今年で入職し3年が経ちます。

そして私事ですが、去年第1子を無事に授かることができました。今後も育児や業務を精一杯頑張りたい、自分自身が成長できる1年にしていきたいです。



看護部 田村 優衣

明けましておめでとうございませう。

入職してから3年目の年になります。今年の抱負は2つあります。1つ目は後悔しないようにチャレンジするです。職場の雰囲気慣れ出来る技術も増えてきたので、「あの時こうしておけばよかった」と後悔しないよう自分から行動出来る範囲を広げていけるようにしたいです。2つ目はプライベートの充実です。入職してからすぐに自粛生活が続く中で、なかなか県外に旅行に行けない期間が続いています。私は旅行が趣味でしたが現在行けないので、今年は趣味を1つでも見つけ、よりプライベートも充実させていきたいと思ひます。



看護部 土江 佳代

昨年4月に入職し、もうすぐ1年が経とうとしています。

新人からずっと同じ病院で働き、初めての転職だったので、うまくやっていたかとても心配でした。しかし、4階病棟のスタッフの方々ののおかげで、毎日頑張ることができています。

私は仕事が遅く迷惑をかけているなど感じることもあります。「早く丁寧に」を心掛けて、今年も頑張っていきたいと思ひます。

リハビリテーション部  
前田 晃子

今年は年女という事で、昨年よりも良い年になる事を期待しています。今でも先輩方から色々な事を教わってきましたが、1年目の頃に「その人の長い人生の中で、少しの間関わらせてもらっているという事を忘れずに」と、セラピストとして患者様との関わり方や心構えを教わってもらいました。

初心を忘れず、慢心せず今年も、今後も頑張っていきたいと思ひます。



看護部 松本 朱未

明けましておめでとうございませう。

2022年になりました。私も松江市に移住し1年が経ちます。

昨年はコロナ過でもあり、遊びに出かけることは少なく過ぎました。それでも松江での生活を楽しく感じることができています。今年は感染状況を見ながら、松江観光してみたいと思ひています。当院での仕事も同僚の皆様を支えられ少しずつ慣れてまいりました。リハビリ期にある患者様の社会復帰に向けての看護について、やりがいや面白さを感じるようになってきています。今年も一つ一つ問題を解決し、前進していくことができるよう日々精進して参ります。

リハビリテーション部  
吉岡 吾郎

明けましておめでとうございませう。

一昨年より続くCOVID-19の世界的流行は未だ収束の兆しを見せず、暗い話題が多かったように感じます。だからこそ、無事に3度目の寅年を迎えられることをとても幸せに思ひます。

干支の寅は「決断力と才知」の象徴とされています。

鹿島病院に転職して早くも1年と5ヶ月が経ちますが、干支の寅に習い、2022年も「千里往って千里還る」ほどの活力、行動力を持って元気に日々を過ごしたいと思ひます。



看護部 米橋 汐里

今年の抱負は終末期ケア専門士の資格を取得することです。

看護学生の頃から終末期に興味があり、終末期の看護をしたいと思ひ看護師になりました。

「資格取得のために勉強に励む。」「運動不足解消のために週2回はジムに通う」を目標に頑張りたいと思ひます。今年もよろしくお願ひします。

# 研 修 医 地 域 医 療 研 修 を 終 え て

松江赤十字病院 研修医 山形 祥世

11月の1ヶ月間、地域医療研修をさせていただきました、研修医の山形祥世です。私の研修先である松江赤十字病院から鹿島病院へ転院される患者さんも多く、転院された方々がどのような経過を経て、自宅や施設へ退院されているのかを知りたいと思い、鹿島病院での地域医療研修を選択させていただきました。



日頃は急性期病院で研修を行っているため、鹿島病院での研修は患者さんとじっくり向き合うことができた1ヶ月間でした。特に、ホールでの食事風景は新鮮でした。食事の形態や食べるスピードを自分の目で確認することは、退院後の生活を考えていく上で重要なことであると実感しました。また、毎朝の検討会やカンファレンスに参加し、コミュニケーションが密になされていることに驚きました。

伊元先生をはじめ、様々な職種の方にご指導いただき、大変勉強になりました。4月からは新たな環境で内科医として働きます。学ばせていただいたことを今後に活かしていけるよう、これからも日々精進して参ります。本当にありがとうございました。



## 脳卒中地域連携パス 合同委員会について

医療相談部 金田 直樹

脳卒中地域連携パスとは、脳梗塞や脳出血などを発症した患者さんが急性期病院からリハビリテーションを中心とした地域の回復期機能を持った医療機関へ転院し、共有する診療計画で地域完結型医療を実現するための一つの手段です。

松江圏域では2008年12月に地域連携パスの運用を開始し、ちょうど13年が経過したことになります。現在は松江圏域の脳卒中パスは急性期病院2病院、回復期病院6病院が参加しています。松江圏域では年間120～130名がパスの対象者となり、当院へは30～40名がリハビリ目的で転院されます。年3回合同委員会を開催する必要があるのですが、年度ごとに各医療機関が交代して企画、開催をしています。今年度の担当病院は当院ということで、2021年12月2日に第35回脳卒中地域連携パス合同委員会を企画、開催しました。パス運用から13年経過して院内、院外ともに参加者も変わってきたこともあったので、初心にかえる意味も込めて「回復期リハビリ

テーション病棟を中心とした鹿島病院の紹介」をオンラインで講演しました。

今回の講演では当院の全体の機能やデータ、回復期リハビリテーション病棟の取り組み、維持期として在宅サービス部から紹介しました。私は回復期リハビリテーション病棟を開設された当初から担当しているのですが、体操などの余暇活動、患者さんへ向けての食事の指導など患者さんにいろいろな取り組みで接しているんだなあと改めて思い知らされました。また通所リハビリでもFIMを採点して評価することで、利用する方としない方の3か月後にFIMの差が出てくるデータもあり、興味深く聞くことができ、この講演をして良かったと感じました。参加者の方にはアピールできたと思いますが、是非院内でも講演を計画していきたいと思っています。

この度は不慣れなオンラインによる研修のため、途中で音声が届かないなどトラブルもあり、ご迷惑をかけたところもあったと思います。今年度もう1回合同委員会を開催する予定ですので、今まで参加したことのない方も参加してみてください。

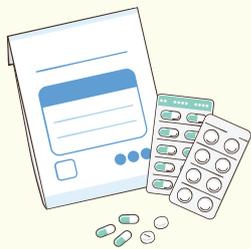


武藤貴広  
薬剤部長代理の

耳寄り  
健康情報

第2弾

## 「薬ってこわいんじゃない????????」



薬剤師 武藤 貴広

新年あけましておめでとうございます。2021年を一言で振り返ると「新型コロナワクチン」で決まりでしょう。ワクチンに限ったことではありませんが、「薬ってこわいんじゃない?」といった不安の声をよく耳にした年でもありました。そもそも薬と私達との関わりはいつから始まったのでしょうか。日本最古の書物である「古事記：因幡の白兔」という話の中に、蒲の花粉が傷を治す効果があることが書かれています。あの「ひかえ～ひかえ～この紋所が目にはいらぬか～」の水戸黄門の印籠も実は薬入れといわれています。このように薬は私達と長い間一緒に存在しているものなのです。最初の質問に戻りますが、薬への不安はほとんどが副作用への不安といえると思います。確かに副作用が全くないといえる薬は存在しないのは事実でしょう。しかし、薬について正しく理解しておけば、必要以上に不安に思うことはありません。製薬会社や厚労省から、副作用の頻度や種類、副作用が出てしまった場合の初期の症状といった情報が提供されています。(例えば、厚労省R3/12/24の資料では新型コロナワクチンは合計197,816,665回接種され、アナフィラキシーの報告が3,047件と報告されています)。これらの情報もふまえ、薬剤師は注意すべき点等の薬の説明を行っています。かかりつけ薬剤師制度もあります。ぜひ利用し薬の理解を深めうまくつきあっていきましょう。

# 喜井 認知症看護認定看護師の認知症あれこれ

2025年には高齢者65才以上の五人に一人は認知症になるという推計があります。認知症を理解することは私たちが生きていく上でも医療の中でも大変重要なことです。2022年新春号より喜井亜祐子認知症看護認定看護師にいろいろな事例を交えながら毎回テーマを決めて認知症ケアについて連載してもらうことになりました。



認知症看護認定看護師 喜井 亜祐子

昨年11月に当院の通所リハビリテーション（やまゆり）の職員・ケアマネージャーを対象に研修をさせていただきました。現在はコロナ禍でオンライン研修が多い中、久しぶりのオフライン

研修では直接意見を聞くことができ、私自身とても勉強になりました。

今回の研修のテーマはアルツハイマー型認知症についてと、それに関連する事例検討を行いました。事例検討では『もの盗られ妄想』のある人の対応について意見交換をしました。私の中には無い新しい考え方をたくさん聞くことができ、真面目な研修ではありましたがとても楽しい研修でした。その中で“認知症ケアは発想の転換”という意見がありました。文献には認知症の人の一般的な対応が書いてありますが、認知症ケアに正解はなく、その人の性格や生活歴、身体状況に合わせた対応が大切です。AさんでうまくいってもBさんではうまくいかないということはよくあります。認知症ケアを考える時、まさに“発想の転換”が大事だと感じました。

コロナ禍が続く中で、まだ大人数でのオフライン研修は難しいかもしれませんが、今回のように多くの人の意見を聞くことができる機会が増えてほしいと思います。



## もの盗られ妄想とは？

アルツハイマー型認知症で見られる被害妄想の一つで、記憶障害によって置き忘れた事実を覚えていないため、「ない＝盗まれた」と判断してしまうようです。もの盗られ妄想で疑われやすいのは介護をしている時間が長い人が多いと言われています。中でも、何でも言いやすいお嫁さんや娘さんの場合が多いようです。

対応：まずは一緒に探してあげてください。もし代用できるものがあればそれを渡してあげてください。本人は盗まれたと思って本当に困っています。否定をすることで症状が悪化することがあるので、否定せず困っている気持ちを受け止めてあげてください。



- ①部署・職種    ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします。

## 入職

小野  
弘子



- ①リハビリテーション部 口腔ケア科  
歯科衛生士
- ②散歩
- ③ラジオ・音楽を聴くこと
- ④全てが初めての仕事内容で毎日が新鮮です。早く業務に慣れるよう頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

### 退職

- 岩田ひとみ 看護部介護課
- 安達 計太 看護部看護課
- 仲奥 健二 看護部介護課
- 山本千恵美 看護部看護課



### 職員数

4.1.1現在

職 種	職員数(名)
医 師	7人
薬 剤 師	1人
P T	24人
O T	18人
S T	6人
看護 師(准看護師)	94人
臨 床 検 査 技 師	2人
診 療 放 射 線 技 師	1人
M S W	6人
介 護 支 援 専 門 員	6人
介 護 福 祉 士	54人
歯 科 衛 生 士	3人
管理栄養士(栄養士)	4人
調 理 員	11人
事 務 職 員	20人
合 計	257人

## 令和4年 永年勤続表彰

勤続20年	川本 弘信 宮廻 由紀	男松身依子	南 祐子	安達久仁夫		
勤続15年	松浦千加子	今岡 祐子	澤 幸子			
勤続10年	浦枈真基子 小松 章平 内田香寿美	串崎 瞳 曾我 伸也 門永 由香	藤原 法文 楫谷 真弥	角田 悠 福田 恵美	森山 雅人 野津裕美子	
勤続5年	森脇 望 福井 達彦 丸谷 龍馬	金森 慶子 井川 明帆 山道 高行	小山 順子 団野 美里 井谷 祥久	平塚 悠也 高野 憲吾 藤井 由佳	青戸 紗貴子 大和 飛鳥	



## 公人会事業報告 (R3年10月~R3年12月)

※退院日は除く

患者重症度指数

強化項目

リハビリ数

### 在宅サービス部

#### 鹿島病院 ①外来

(診療日数65日)	1日平均患者数
延べ外来患者数	953人 14.6人/日

#### ②病棟 2F特殊疾患病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	5,403人 58.7人/日
レスピレーター装着延べ患者数	1,783人 19.3人/日
①脊髄損傷等の重度障害	549人 5.9人/日
②重度意識障害	1,928人 20.9人/日
③神経難病	2,206人 23.9人/日
④筋ジストロフィー	0人 0.0人/日
3か月間の特殊疾患対象患者割合	87.8%

#### 3F回復期リハ病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	4,632人 50.3人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	98.6%
平均リハ提供単位数	5.9

直近6か月間の新規入院患者・重症者の割合	114人 45.6%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	92.3%
直近6か月間の重症改善率	78.0%
直近6か月間のアウトカム実績指数	47.4点

#### 4F療養病棟

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,653人 28.8人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	93.9%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合(4F全棟)	88.3%

#### 4F地域包括ケア病床

(診療日数92日)	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,338人 25.4人/日
A・C項目患者の割合	20.0%
平均リハ提供単位数	2.5
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	80.8%
ショートステイ延利用者数	21人 0.2人/日

#### ①通所リハビリ“やまゆり”

(稼働日数77日)	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	3,032人 39.4人/日
短期集中リハビリ実施数	239単位 3.1単位/日

#### ②訪問リハビリ“つばさ”

(稼働日数63日)	1日平均利用者数
訪問リハビリ延べ利用者数	37人 .6人/日
訪問リハビリ延べ単位数	82単位 1.3単位/日

#### ③訪問看護“いづくしみ”

(稼働日数62日)	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	165人 2.7人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	667人 10.8人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	255人 4.1人/日

#### ④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数62日)	月平均策定数
延べケアプラン策定数	386人 129人/月
延べ介護予防ケアプラン数	236人 79人/月





## 医療法人財団公仁会中期ビジョン2019

医療・介護が一体となり、リハビリテーションを柱としたサービスを展開し、急性期病院をはじめとする医療機関・介護事業所・行政機関との連携を軸に、橋北地区の地域包括システムを支える。

### <ビジョン策定の主旨>

高齢化に伴う疾病の多様化・重度化さらにリハビリテーションの要求に応え、橋北地区における地域包括ケアシステムの中核病院として入院医療と在宅医療を継続的に提供するため、中期ビジョン2019を策定する。

### <本計画の期間>

この計画は2019年4月から2022年3月までの3年間を期間とする。

### 1. 良質な回復期・慢性期医療

#### (1)回復期医療

回復期リハ病床を中心としたリハビリテーションの更なる充実に加え、地域包括ケア病床での短期リハビリテーションを組み合わせることで地域の回復期医療を担う。

#### (2)慢性期医療

特殊疾患、医療療養病床で難病、医療依存度の高い患者への対応を行い、地域包括ケア病床で入院加療を必要とする高齢患者に準急性期医療を提供することにより地域の慢性期医療を担う。

#### (3)質の高いリハビリテーション

回復期リハ・地域包括ケア病床でのリハビリテーションを外来・通所・訪問のリハビリテーションに繋げていくことで、地域におけるリハビリテーションを総合的に行う。

#### (4)外来・訪問診療

入院診療を支えるため、外来のみならず訪問診療を訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリとの連携で充実させる。

### 2. 在宅生活を支える医療・介護

#### (1)良質な在宅医療

患者にとって「安心な支える在宅医療」を促進するため、外来・訪問診療と訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携を一層進める。

#### (2)良質な在宅支援サービス

外来部門、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ならびに通所リハ、外来リハ、訪問リハが質・量ともに向上し、リハビリテーションを柱とした質の高い医療・看護を提供する。

### 3. 地域連携 及び 地域貢献

#### (1)病病連携、病診連携、地域（行政（県・市・保健・福祉・介護）、地区）連携

急性期病院や地域の診療所と継続的・定期的な意見交換会を実施するなど顔の見える連携の更なる強化を行う。また、行政との連携を深め、周辺地区事業にも積極的に関わる。

#### (2)予防医療や介護技術を地域へ普及

地域住民への啓発活動や医療・介護関連職種に対する勉強会等を通じて、地域に積極的に知識を還元していく。

#### (3)地域への情報発信

病院の機能や在宅サービス機能、治療成績、行事等についてホームページや広報誌等を活用して、積極的に情報発信を行い公仁会のブランド力を高める。

### 4. 医療安全・院内感染対策

#### (1)医療安全

医療・介護サービスを提供する全ての方へ医療安全を担保することは前提条件であり、日常から緊張感をもって業務改善に努める。

#### (2)院内感染対策

院内感染が起こってからの対策のみならず「発生しないための対策」「予防策をいかに取るべきか」院内感染防止対策委員会の活動だけでなく日頃からの予防教育を継続する。

### 5. 医療サービスの質の改善

#### (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動

日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価3rdGV2.0への参加が決定し2020年1月に更新受審する予定である。日頃の診療行為等の見直しを図り、医療サービスの質の向上に努める。

#### (2)臨床指標（Clinical Indicator）の活用

診療報酬体系がストラクチャー評価からアウトカム評価重視へ移行する過渡期の中で、当院のアウトカムである在宅患者受入れ率や在宅復帰率、リハ効率、医療区分割合、医療看護必要度、訪問診療回数などを院内外に積極的に発信していく。

#### (3)患者満足度向上の組織的取組み

継続的なアンケート調査を行い患者ニーズの把握に各部署務め、満足度向上のため継続的に努力する。

#### (4)施設・設備・環境の整備と充実

患者のQOLに資すること、並びに職員の働きやすい環境の整備を計画的に進める。

### 6. 人材の確保と育成

#### (1)人材の確保

良質な医療・介護をより向上させる為、必要人材を適時適切に確保する。

（特に医師は現在の構成を顧みれば確保は急務である。また、薬剤師、看護職員、介護職員においても各々の自己研鑽だけでなく新たな人材の受入が必要である。）

#### (2)人材の育成

研修会、研究会への参加は今後も計画的・継続性をもって行い、各人の一層のレベルアップを行う。

#### (3)働き方改革への対応

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」に沿った労働環境を整備し、働きやすい環境作り、離職防止の取組、キャリアアップサポート、福利厚生事業の充実など、魅力ある職場づくりを行う。

#### (4)学生の受入れ

学生実習の積極的受入れを行い職員のレベルアップを促すとともに、採用機会を増やすような取組みを引き続き行う。

### 7. 新電子カルテシステムの検討

CIMA/LinkCare、医事システム Hope のハード更新を2022年に控え、今後の電子カルテシステムはどうあるべきか検討委員会を立ち上げて検討する。



みなと  
湊くん  
(10才)



あみ  
亜美ちゃん  
(2才)



りせ  
莉世ちゃん  
(1才)



そう  
颯悟くん  
(14才)



看護部  
糸川 佳子さん



診療部  
伊元 祐貴先生



# わが家のアイドル



りこ  
莉子ちゃん  
(2才)



かこ  
華子ちゃん  
(4か月)



リハビリテーション部  
藤原 法文さん



リハビリテーション部  
丸谷 裕子さん



かほ  
花穂ちゃん  
(2才)



はるき  
晴希くん  
(4才)

診療部  
丸谷 龍馬さん



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が収束しない状況が続いていますが、一日も早く平穏な日々が訪れることを願っています。

さて、今年、広報誌「ときめき鹿島」は創刊から丸20年を迎えます。

これからも新しい企画を取り入れながら、いろいろな情報を発信していきたいと思っています。

今年もよろしくお祈りします。

広報委員会一同

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1

e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/

鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221

訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640

やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645

通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637

訪問リハビリテーション(つばさ) TEL・FAX(0852)82-2637

■印刷元 柏村印刷株式会社

